

日本語の発展から言語の習得について

卢 大 凯*・山 崎 淑 子**

The Study of Language Acquisition through the Development of the Japanese Language

Lu Dakai and Yoshiko Yamazaki

As an English teacher who has been teaching English for many years, recently, I've been in Japan to teach Japanese students Chinese. By comparing the Japanese language with English and Chinese, and also comparing Japanese students with Chinese students, I found that the Japanese language has its own characteristics and Japanese students have their own style in language studying and I also found that the most important thing in language study is language practice itself and language study interest. So I wrote this article to contribute to the students who study languages.

はじめに：

言語は人類が互いの自分の思想、意思を伝達する際に、必要な道具です。世界の急速の発展及び社会の前進に伴って、各国の間の文化、言語、技術多方面の交流が益々、頻繁に成ってき、友好往来も増えつつあります。こうした中、言語は大きな役割を果たしており、人々の意思疎通に大きな貢献をしています。さて、いかにして、速やかに外国語を習得するかは当面の一大課題だと言われております。本章は日本語を例にして、語学の勉強について、ささやかな私見を述べさせていただきますと思います。

一、日本語の特色：

日本民族は勤勉で、優秀な民族です。日本は外国の文化、思想を積極的に吸収する面では世界の見本となっているのです。近世紀以来、日本は西洋の先進科学技術を学び、自分の両手で、国を世界の有数な先進国に作り上げました。科学技術だけでなく、日本はまた、他国の優秀な文化と言語を受け入れ、世界各国の言葉の良いものを採用し、特色のある日本語に作り上げました。これによって、外国人の日本語の勉強に大きな便利さをもたらしました。なぜならば、漢字と外来語が入っているからです。

さて、通常、私たちは日本語をその構成から、四種類に分類しています。

1, 和 語 : おとうさん、なつやすみ、部屋

2, 漢 語 : 花 瓶、小学生、起床

* 教養部 ** 事務局

3, 外来語 : デパート、プレゼント、カーテン

4, 混合語 : フランス語、野球チーム、為替レート

以上の四つの中、和語は日本本民族の言語で、漢語は中国大陸からきた言語です。外来語はヨーロッパ、アメリカからの言語で、「混合語」は和語、漢語、それ以外の語の組み合わせから成ったものです。

二、漢語の輸入から日本語の習得を見て

千年も前、日本は多くの学者を派遣して、海の彼方の中国へ行きました。そこで、中国の文化、制度等を勉強しました。さらに、七、八世紀頃、日本政府は遣隋使、遣唐使等を派遣して当時の中国の文化と歴史と制度を学びました。中国の漢字の流入に従って、現在、日本語の中の常用漢字は1945余り有り、学生たちは小学校、中学校の間に、これらの漢字を学びます。今日、漢字は既に日本の文化、生活の中に浸透し、重要な部分となり、日本人は中国人以上に漢字に詳しくなりました。これは日本人が中国の言語を習得した結果だと私は思います。しかし、二十世紀後半以後、中日両国の漢字は各自の方へ変化し、別々に簡体化しました。簡体化した漢字の形式と数は同一ではなく、現在の日本人とくに多くの若い人々は漢字の簡体したものが分からなくなり、疎遠になってしまいました。例を挙げてみますと：

「書——书」、「帰——归」、「難——难」、「類——类」、「筆——笔」、

「傘——伞」、「議——议」、「業——业」、「様——样」、「積——极」、

「備——备」、「華——华」、「遷——千」、「劇——戏」、「楽——乐」

等等です。逆に、中国人はこれらの漢字を見て分かります。これから見ますと、日本人はこれらの漢字の変化を習得していなくて、分からなくなったのです。

三、外来語の輸入から言語の習得を見て

近世紀、多くの外来語が日本に流入してきたのは世界の科学技術の発達と経済の高速の発展につれて、日本が世界各国と頻繁な文化と経済交流を行った結晶だと言えます。これらの外来語の中ほとんどは、英語からの外来語です。例えば：「バナナ——banana」、「ベット——bed」、「レコード——record」、「ノート——note」、「ナイフ——knife」、「プレゼント——present」、「フランス——France」、「バドミントン——badminton」、「ジュース——juice」などです。

これらの外来語の輸入によって、日本人はこれらの言葉を認識することができ、習得する機会を得ていました。外来語は速やかに、日本語の中で席を占めるようになり、日本の文化及び日本の外国との交流に大きな影響をもたらしました。

ただし、今日、外来語は増える一方だと外来語の使い過ぎと外来語の氾濫を心配している人さえ出ています。日本のお年寄り、子供、教育の機会が余りなかった人にとっては、外来語

は天の上の雲のように、不案内で、かれらは、直接認識が少なく、習得チャンスもないので、困る一方だそうです。しかし、習得の過程の増大につれて、かれらも次第に増えつつある外来語を受け入れられるようになるのでしょうか。ある学者はいつか、日本語は西洋化してしまうと予言していますが、はたして本当にそうなのでしょうか。

四、日本語の両面性から言語の習得を見て

日本語は漢語と他の外来語の輸入によって、代表的な特色のある言語になりました。日本語は難しいとは言われていますが、それは、両面性があります。難しい一面と易しい一面があります。難しいというのは西洋人にとって、漢字の書き方、読み方、理解の仕方が難しいのです。反対に中国人は、増えつつある外来語に対し、難しいと感じます。私の知っているヨーロッパの友人の一人が、日本語専攻卒業で、日本に三年も滞在しました。先日、かれは日本語の三級の試験に参加すると聞いて、私はびっくりしました。その理由を聞くと、やはり、漢字を読む、書くのに自信がないと言っていました。もう一人の中国人の友人は、日本語の専攻で数回も日本へ行き来していましたが、彼の言うには、しばらく日本にこないと、カタカナが分からなくて困ります、と言っていました。これを見ますと、難しいというのは、かれらはこれらの言語に対し、適応、習得の過程が欠けていたからだと思われれます。

難しい反面に、日本語は易しい所もあります。即ち、西洋人は外来語に対し、易しいと感ずし、中国人は漢字に対し、易しいと感じます。日本人は両者をよく習得しましたので、中国語と英語の勉強の際、難しさを感じないのです。それは、小さい時から漢語、外来語に対し触れ合いがあったからではないでしょうか。私達はもう一つの現象によく気がつきます。日本人であれ、中国人であれ、若い人たちが、「さようなら」という時に「bye bye」、と言い、日本の子供たちも、おかあさん、おとうさんのことを「mama」「papa」と言います。中国の若い人は「迷你裙」(mini)の意味で、発音も引用していますが、バスケットボールの時には「pass」と共に使います。他に「カラオケ」は「卡拉OK」と言い、「W・C」、「Kiss」などは全世界で知られています。この現象から見ますと、これは互いに外来語を習得して得た結果だと言えます。以上、挙げたものを見ますと、一つの言語をうまく勉強するのに、一定の習得過程が必要です。いかにして、外国語を速やかに勉強するか、覚えるかは、語学教師の当面の課題だと言えるでしょう。筆者は長年、中国の中南工業大学で、英語の授業を担当してまいりましたが、今年、日本の福井工業大学に中国語を担当することになり、教育の経過、経験したこと少し工夫したことについてここに述べてみたいと思いますが、ご指正いただければ、幸いです。

五、教を楽に寓する

人はだれでも、自分の好きなことをやりたいです。そして、疲れを顧みず、やり抜きたいで

す。元もと、語学の勉強は枯燥無味なものです。教師は学生を楽な雰囲気の中で勉強させることは極めて重要です。言語を楽しみながら、勉強できるのは、倍以上の効果が収められるのではないのでしょうか。教師は教を楽に寓すれば、学生も学を楽に寓するのです。1995年、私は中国で、二つのクラスを持ちました。私は、それを実験に試みました。学生が、入ってきた時英語実力テストを行いました。結果は点数の差はそれほどなかったのです。それで、Aクラスに対し、「興味教育法」を行いました。毎回、授業の始めに、学生一人を指定して、当口、または数日以来の状況を報告させます。内容はことわらず、勉強、生活、過程、趣味、天気なんでも結構です。最初は学生が中々、慣れなくて、話す内容が少なかったのです。数週間後、学生はだんだん、興味を示すようになってきて、言葉も、流暢になって来、リラックスして、話せるようになったのです。そして、学生は私に、二人指定したらいかがですかと言ってきたのです。学生が、この任務を完成するために、事前に、たくさんの資料をしらべなければなりませんので、自然にたくさんの言葉を覚えるのです。そして、放課後、外国語の勉強時間も増えたのです。ヒアリングの時間に、学生に回答を書いてもらうだけではなく、一人一人に口頭で、答えてもらいます。教師からの質問は、分別して行います。難しいのは、基礎の高い学生に頼み、易しい問題は基礎の低い学生に答えてもらいます。こうしますと、学生は、授業の中で負担を感じないで、自由自在に話せます。そして、楽しさを感じるようになったのです。

天気の良い時、私は、学生を芝生に連れて行って、そこで授業をします。いつも、ゲームの方法で授業をやっていました。たとえば：学生に輪になってもらって、一人は中央に立って、課文の内容を幾つかのテーマにして、自由に選んで、ほかの学生に質問します。質問された学生は「鬼」になって、次の学生に質問します。こうして次から次へと、笑いながら、授業の時間を過ごしてしまいます。少なからぬものを習いました。夕方、学生の自習時間にクラスの学生を集めて、英語のゲームをやります。例えば：単語争奪くらべ、単語検査くらべ、講演のコンテスト、ヒアリング競争、などをやって、優勝者にはクラスの会費を使って、小さな記念品を贈ります。これら一連の活動を通じ、学生たちは、自分の才能を発揮し、機会を得て、英語の勉強に深い興味を持つようになります。そして、自覚的に勉強するようになるのです。

一年後テストを行って、二つのクラスは格差が現れました。結果をまとめてみますと、次の表の通りです。

班 級	閱 読			聴 力		
	実力試験	一学期後	一年後	実力試験	一学期後	一年後
A 班	71	79	88	65	70	78
B 班	72	75	82	66	68	74

表のA班は興味教学を行ったほうです。

六、強化トレーニング

中国では、「水が到れば、溝が成る」という諺がありますが、これは、外国語の勉強に言えば、多く訓練し、多く習得することです。時間は人に平等に与えられていますが、人間は惰性があります。外国語の勉強は時間との競争です。人間の惰性を克服するために、学生は一定の圧力が必要です。閲読は大量の単語が集まっていて、総合訓練の得られる良いチャンスです。閲読は絶えず新しい単語を身に付けるだけでなく、さまざまな知識が覚えられ、温故知新の働きがあります。外国語の勉強の中で有効な方法です。私は中国の英語教育の時、閲読を非常に重視しました。授業の終わり10分間前、800文字の文章を学生に快速閲読させます。授業以外に1000文字の文章を与え閲読させます。

課外の勉強結果は定期的に検査或は、小テストをやります。その成績を期末総評に記入して、学生に緊迫感を感じさせます。学生はこうした圧力があると、やむ得ず、勉強しないといけなくなり、一定の量を完成せざるをえなかったのです。最初は1000文字の難易度相当の文章は、20分内に完成しましたが、一学期が終わり、15分となり、一年立ったら、10分間になり、一年半の後、ただ、5分で、完成できるようになりました。語学の勉強は訓練はただ一つの手段で、消化は最終の結果になります。消化は訓練に対する要求であり、試しであり、目的地でもあります。ある人は私に外国語の勉強の秘訣を聞きましたが、私の答えは、「Practise, practise and practise more」。訓練が多いですと、結果も多くなります。「熟は巧を生ずる」、「温故知新」とあって、絶えず訓練して、絶えず覚えます。さらにそれを強固させます。「塵も積もれば山となる」これは中国の「水が到れば、溝が成る」と相合した言葉です。一定量の堆積があって、はじめて山となるのではないのでしょうか。

七、外国人教師の活用で、言語の習得を促進する

人類が事物を認識する規律は感性認識より、理性認識へと発展するのです。しかし、外国語は正に逆だと思えます。それは理性認識より感性認識へと発展するのです。まず、学生は課本を通し、前人がまとめた精練な言語知識を習って、文法、単語を習得するのです。これは第一段階です。それから実践に使ってみては高め、感性認識に到ります。これは第二段階です。私の理解では、本で習った知識をその言語本国の人と話してみ、或はその国へ行ってみて、理論を実践にして言語を勉強しなければなりません。

福井工業大学は毎年、7～8名の外国人の講師がいますが、外国語の勉強に非常に良いチャンスです。大学はこの機会を利用して、学生によい言語勉強の環境を作っています。中国では大学の外国人教師はそのわりに少ないです。しかし、大学側は外国人教師を充分に使って、学生に言語の勉強にいい条件を創ります。

中国では、外国人教師は中国語が分からなくて結構です。自分の国の言葉で話してもらいます。最初は、学生は聞きなれませんので、退屈でしたが、繰り返し繰り返ししているうちに、だんだん慣れてきました。訓練の機会が多かったら、耳が慣れてきます。このやり方は中国で非常に人気です。外国人教師はみんな自分のオフィスがあり、放課後、学生の訪問を待ち受けます。学生はこの時、外人先生に会話したり、質問したりします。よる学生は時々、外人教師の所をたずね、直接その国の言葉を耳で聞いたり、話してみたりします。ほかに、学校はまた外国語コーナーを設けました。毎晩、決まった時間、場所で、学生と一緒に集まって、外人教師が参加して、学生互いに外国語で、会話をし、学生は外人教師と会話をし、外国語の勉強の雰囲気は濃厚です。学生は言語勉強に対する意欲もぐんと高まりました。学生の中に、とても人気があります。たとえ学生一人一人は外人教師と会話の機会がなくても、そばで聞いてもいいので、勉強になります。福井工業大学は外人教師が多いですので、このめぐまれた条件を有効に利用しますと、学生が外国語勉強にもっと興味を持つようになるでしょう。

八、おわりに、

以上をまとめて述べますと、二点が見られます。一つは実践論で、もう一つは方法論です。中国では、「実践より真知が出る」と「熟すれば巧が生ずる」と言いますが、英語にも「Practice makes perfect」と言います。これから見ますと、実践は言語勉強の首位で、重要な一環です。日本語に漢字と外来語が入っていることは、日本人の外国語の勉強に有利な条件をもたらしていますが、反対に現在、日本の若い人は略した漢字が分からず中国の人は「古文」「文言文」が分からないのは、実践と習得が欠けたからです。また、もう一つの現象からも説明できるように、多民族国の官方言語の習得です。例えば：カナダの官方言語は英語とフランス語です。シンガポールの官方言語は漢語と英語です。これらの国では、二つの言語で、交流できます。これはかれらの長期的なこれらの言語に対する体得の結果です。

私ども言語教師はよく人に聞かれますが、「どんな方法で、外国語をうまく勉強できるのですか」と、簡単に見えますけれど、実は中々、答えにくい質問です。テレビ、新聞などでも、よく宣伝しますが、「72時間に速成習得法」とか「三カ月でアメリカを自由に歩き回れる」とか、本屋にも、「英語速成」、「日本語速成」などがなっています。これは二番の方法論に属します。多くの言語学者はこの方法を採用していますが、科学者さえ、「いかにして人間の脳は速やかに大量の言語情報を記憶できるか」と研究しています。道理で言うと、人間の脳は高級、完璧な機械です。すでに、見たこと、聞いたことを記憶できるはずですが、なぜ、繰り返して記憶しないと忘れてしまうのでしょうか。ですから、方法は実践の上に成立するので、もし、なにも言語の基礎がなかったら、72時間に、三週間に流暢に言語を使うことができるはずはあるのでしょうか。単語の速記憶の中、語幹がわからないと、語尾が分かりますか；閲読の時、たくさん単語がないと、文の意味が当てられますか；複文の場合は前後の文の

意味が分からないと、文章の意味が取れますか。ヒアリングの時、言葉に対する熟練がないと聞き取れるはずがないのです。ですから、方法論が第二位です。以上から見ますと、外国語の勉強は習得過程が大事です。外国人教師の十分な利用と学生の外国語に対する興味を引き出しは今後のわれわれの課題だと思われます。

参考書籍：

- 1, 中日交流標準日本語 人民教育出版社
- 2, 新日本語 山西人民出版社
- 3, 日中辞典 小学館

(平成9年12月2日受理)